

病院間にシャトルバス

製鉄記念室蘭⇄洞爺温泉

室蘭市知利別町の製鉄記念室蘭病院（松木高雪病院長、347床）と、洞爺湖町の洞爺温泉病院（中谷玲二院長、216床）は8月1日、両病院を結ぶシャトルバスの運行を始める。製鉄病院の患者が洞爺病院の緩和ケア病床に転院する際や、家族が見舞う時に利用できる。洞爺病院の患者は、検査機器がそろった製鉄病院に精密検査へ向かえるなど、バスを利用して各病院に欠ける機能の補完が可能になる。

（相沢宏）

転院や検査、見舞いに利用

両病院の連携は、製鉄病院の中谷院長が週1回出張診療を始めたのがきっかけ。こうした運行は、道内では珍しい

という。

製鉄病院は末期がんと診断された患者に専門的対応ができる緩和

ケア病床がなく、一般病床も満床が続く。近隣病院の緩和ケア病床もなかなか空きがなく、連携医療機関の充実が課題となっていた。一方、洞爺病院は整形外科や脳外科などがなく、治療や診察が必要な患者に製鉄病院

を紹介し、バス送迎できるメリットがある。バス運行は道南バスに委託。1日2往復（土日・祝日を除く）で片道50キロを1時間半で結ぶ。20人乗りの車両を使い、室蘭市内2カ所、伊達市内1カ所を経由する。利用は無料で、



製鉄記念室蘭病院前に設置されたシャトルバスの停留所

また、洞爺病院の中谷院長は「積極的な治療が必要な急性期医療を重視する病院と、緩和ケアなど長期的な医療を行う病院間の役割分担を後押しするモデルケースになるはずだ」と話している。